

鯖江市総合戦略推進会議【要旨】

日時 令和元年8月19日（月）

午後1時30分から

場所 市役所 4階 全員協議会室

【欠席】3委員（22委員出席）

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の諮問
- 5 委員紹介
- 6 議事
 - (1) 第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について
 - (2) 昨年の会議での意見と検討状況
 - (3) 鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の達成状況について
 - (4) 地方創生交付金等活用事業に係るK P I の達成状況について
 - (5) その他
- 7 福井県長期ビジョンについての意見交換
- 8 閉 会

【配付資料】

- 資料No.1 鯖江市総合戦略推進会議委員名簿
 - 資料No.2 鯖江市総合戦略推進会議設置要綱
 - 資料No.3 諮問理由
 - 資料No.4 策定スケジュール
 - 資料No.5 鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
 - 資料No.6 昨年の会議での意見と検討状況
 - 資料No.7 鯖江市総合戦略 K P I （主な重要業績評価指標）一覧
 - 資料No.8 地方創生交付金等に係るK P I
 - 資料No.9 市民アンケート単純集計結果
- 鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【議事要旨】

▼市長あいさつ

S D G s の目標の達成を目指さなければ地球が、企業経済が、自治体経営がもたないわけであり、地方創生はS D G s の目標にそったものでなければならない。

大きな3つ柱、「ソサイエティ 5.0 の推進」、「国土強靱化と環境との調和した魅力あるまちづくり」、「女性のエンパワーメントを地域のエンパワーメントに」がK P I

の設定や第2期総合戦略の基本とする。

SDGs 未来都市の認定をうけた。国連と連携した取組みで地方のロールモデルを目指しており、これを書き加えた戦略にしてほしい。SDGs の取組みを鯖江から発信したい。

若者が住みたい住み続けたいまちづくりを目指したい。人口増には陰りが見えている。人口をどう維持するか持続可能な自治体経営をどうするか。ご意見いただきたい。

▼「第2期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について」

○資料 No. 4 について政策経営部長から説明。

○資料 No. 5 について政策経営部長から説明。

▼「昨年の会議での意見と検討状況」

○資料 No. 6 について政策経営部長から説明。

▼「鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る K P I の達成状況について」

○資料 No. 7 について担当部長から説明。

政策経営部長：

目標値に向かうスピードが遅いまたは後退している KPI につきまして、各担当部長から内容を説明させていただく。

産業環境部長：

No. 11 の新規就農者数が目標値を達成できるよう、補助金制度を十分に周知して新規就農者の増加につなげていきたい。

政策経営部長：

No. 14 の若者の社会減の抑制について、20歳から24歳の人口が87人減と、他の年代に比べ特に人口が減少しており、この年代の転出超過を抑制することが大きな課題と考えている。

No. 21 のタブレットアプリ年間講座受講者数について、公民館や高年大学での講座や IT フェスでの相談会などを開催しているが、講座定員にはまだ余裕があるため、今後も講座への参加募集について周知していきたい。

教育事務部長：

No. 24 の将来、市内の地場産業に関する事業所で働きたい生徒（中学1年生）の割合と、No. 25 の将来、市内の企業で働きたい生徒（中学1年生）の割合について、さばえものづくり博覧会の前後に実施している学習会を十分に行之、生徒の地場産業に対する関心を高めていきたい。

政策経営部長：

No. 33 の出生数について、子育て環境の整備など、子どもが育てやすい環境づくりに取り組むことにより、子育て世代の転入の増加、ならびに出生数の増加に取り組んでいく。

健康福祉部長：

No. 35 の子育て支援に満足している人の割合について、子育て家庭への

経済的支援、保育サービスの充実など、アンケート調査であった意見を踏まえて、市民の皆様のニーズを反映させた第2期子ども・子育て支援事業計画を策定していきたい。

No. 37の放課後児童クラブ数（公立）について、市内の放課後児童クラブの利用定員総数が1026人で、今年度の登録児童数が973人となり、放課後児童クラブ数は足りているが、利用定員に対して登録児童数が超えている地区もあるため、その地区においては放課後児童クラブの開設を検討しなければならない。

No. 38の子育てサポーター登録者数について、子育てサポーター養成講座の修了生に対して登録を呼びかけるとともに、若年層の子育てサポーターへの登録増加に向けて取組みを進めていきたい。

No. 43の地域見守り体制の整備率について、鯖江市社会福祉協議会との協働により出前講座などを実施し、市民の皆様への意識啓発を行うとともに、各地区公民館に配備している地域支え合い推進員と連携しながら、地域での支え合いの体制づくりを進めていきたい。

教育事務部長：

No. 45の公民館の年間利用者数について、平成30年度は神明公民館と河和田コミュニティセンターが耐震工事に伴い1年間休館していたため、利用者数の減少となった。

都市整備部長：

No. 47の中心市街地周辺の人口について、商店街の複合ビル構想がなくなったため、人口増加につながらなかったと考えている。

総合交通課長：

No. 50のつつじバス年間利用者数について、今後のつつじバスの運行のあり方を検討していくために、つつじバスの乗客や、高年大学の学生やふれあいサロンの高齢者などに意向調査を行っている。

No. 51の福武線市内駅年間利用者数について、福井鉄道株式会社と協議をしながら利用者増加に向けて取り組んでいきたい。

No. 52の公共交通機関が充実していると感じている人の割合について、つつじバスのダイヤ改正に伴う利用数減が影響として出たのではないかと考えている。現在、普段の生活の中での移動に関するアンケートとして高齢者を中心に意向調査を実施しており、鯖江市の交通のあり方を交通ビジョンとして策定し、市民の移動手段に対する満足度を上げていくための施策に反映していきたい。

政策経営部長：

No. 53の自主防災活動実施率について、原因の一つとして、昨年度実施される予定であった神明地区の総合防災訓練が台風の影響で中止となった

ことが考えられ、実施されていれば80%の目標値が達成していたと考えている。

都市整備部長：

No. 56の河川施設の整備率について、吉野瀬川の河川整備が来年度終われば目標値を達成する予定。

産業環境部長：

No. 61のごみの1人1日当たりの排出量とNo. 62の資源化率について、燃やせるごみの中に混入している30%程度の資源化できるごみを資源化していくとともに、事業所からのごみの資源化率が全体の資源化率を下げているため、事業所におけるごみの資源化が高まるよう取り組んでいきたい。

総務課長：

No. 68の能力態度評価評点数（人事評価制度）について、若い職員の点数が低い傾向にあるため、人材育成をしていくために職員研修の充実を図っていききたい。

政策経営部長：

No. 71の国際交流員および通訳者等派遣人数について、市内に在住する外国人が僅かながら増加傾向にあり、生活支援や防災に関係する出前講座に関する需要はあると考えているため、今後PRに努めていきたい。

▼「地方創生交付金等活用事業に係るKPIの達成状況について」

○資料No. 8について担当部長から説明。

産業環境部長：

No. 2のラポーゼかわだ・農家民宿等外国人宿泊数について、農家民宿のHPを立ち上げるような支援などを行い、外国人宿泊数を増やしていきたい。

No. 5のラポーゼかわだ宿泊数とラポーゼかわだ体験設備利用者数、ラポーゼかわだ総売上額について、ラポーゼかわだは今年度と来年度に大規模な改修を行うため、宿泊数の減少が予想されるが、今年度からラポーゼかわだの指定管理者となったフードサービス福井が、経営ノウハウを活かして施設のPRとコスト削減を進め、体験設備利用者数等の増加を図っていくことを計画しており、その取組みについても支援していきたい。

都市整備部長：

No. 6の空き家利活用件数と本事業による移住・定住者数について、さばえ空き家・空き地管理協会やふくい町守ネットワークと連携協定を締結し、空き家対策における情報の共有を図るとともに、今年7月から空き家の利活用希望者とのマッチングを図るため、地域おこし協力隊を採用し、空き家問題への対応や空き家所有者に対する相談窓口の設置を行っている。

▼「その他」

○質疑・意見

委員： 今後も地方創生推進交付金は継続されるのか。

政策経営部長：

地方創生推進交付金は今後も継続されると聞いておりますので、今後も交付金を活用しながら地方創生に向けた事業を推進していきたい。

委員： 資料 No. 7 の 17 のクラウドファンディングを活用した若者活動支援数について、現在、鯖江市が利用している F A A V O の広報力は低いため、目標値を下げざるを得ないのではないかと。また、利用者に適したクラウドファンディングを紹介したり、クラウドファンディングに関する相談に応じたりした方がいいのではないかと。

政策経営部長：

F A A V O において、30 以上の事業が資金調達に成功しており、一定の成果があったのではないかと考える。今後は、若者がクラウドファンディングを活用して事業を推進していくことを応援するような体制を整備していきたい。

会長： 人口ビジョンや総合戦略を市民一人ひとりに理解してもらうことが今後の課題となってくる。

まちの力は人の力であるため、人口増加させるための施策についても市民一人ひとりが理解を深めていく必要がある。

▼福井県長期ビジョンについての意見交換

県： 皆さんから望ましいと思う福井県と鯖江市について一言ずつご意見をいただきたい。

委員： 保育環境を充実（3 歳までの子を預かってもらえないことを解消）させ、子供を産んでもすぐに復職できるようにしてほしい。結婚年齢において女性が男性よりずっと多いアンバランスとなっている。就職が身近になる高校生に地元の企業の P R を行うべき。

委員： 福井らしさを追求すべき。リトル東京を目指すなら東京に住んだ方がよい。地場産業の基礎技術を活かして I T などと融合して生産性の高い仕事を生み出すべき。可処分所得が高ければ人は住みたくなるもの。目標値にかかげていいのではないかと。

委員： リトル東京はいらない。3 世代同居は昔ながらの習わしが残っているということで、女性が犠牲になっているのではないかと。福井県は規範意識が強い。もっと多様性を認めるべき。人権を尊重すべき。弱者（障がい者や外国人）も住みやすい移動手段・教育などの環境が担保されるべき。

委員： 多様な人（未婚の中年男性、外国人の女性）が地域行事に隔たりなく参加し交流できる環境を作るべき。

委員： 最近、昔と違い福井出身であることが恥ずかしくなくなっていることはとても良い。若者が福井が好きと言っている。いい方向に向かっている

のではない。

委員： 高校生に鯖江や福井の良さをたくさん伝えており、よく知っているが、進学や就職の際に単純にプラスにはならない。都会にあこがれている生徒はいる。大都市だからできることはやはりある。Uターンを促すには雇用しかない。福井に帰ってくると何が幸せなのかを伝えきれてない。

委員： ふるさとが好き。帰ってきたいという子どもの割合は増えている。学力・体力日本一を支えているのは教員であり無理がかかっている。幸福度日本一という外向きの数値だけでなく、福井の女性や教員が幸福と感じているかどうかを数値で図るべきでないか。

委員： 子供の遊ぶ場所がない。12~3 月は雪、夏は酷暑で外で遊べないので家の中でゲームになる。横浜のアソビルのような施設（ボールプール、クライミング）を作るべき。

委員： 人口が減ると地域が縮む。晩婚化、未婚化の問題が大きい。若者の理想と現実のギャップを埋めるべき。自然増を増やすことが重要なので、いろんな意見を聞いて対策すべき。

委員： 段々田んぼが山に変わってきている現実。農業は楽しくなければ続かない。一反 10 万円にしかない。作るだけでなく、ものを売れる組織を作ってほしい。そうすれば農業は発展する。

委員： 福井は宿題がすごく多い。やりたいことを見つけることに敏感になる教育を。勉強は全国どこでも教えている。福井らしい教育とは、田舎ならではの経験値を得る教育ではないか。

委員： 福井県は人口を含め全国から見れば 0.6%程度にすぎず、あてにされていないという印象を受けている。福井県は、自然は豊かで、東京にはよく思っている友人も多く、リニアも名古屋まで来るのでどこにでも行けるし、このままでも十分なのかもしれない。住まなくてもよい過疎地域には住まなくてもいいのではないか(コンパクトシティの発想)。

委員： 男女参画ネットワークには 20 団体以上あるが、いろんな団体が後継者不足でしぼんできている。定年が伸び、若い人のボランティア参加が難しい。特に女性は家事や仕事に追われている。団体を継続するために、いかに楽しんで活動してもらうかを考えている。若い人たちは年配の人たちの話が聞けることが勉強になると言っている。女性活躍で家庭崩壊とも言われる。子供がまともな食事をとっていない。ここにいないでもいい、県外に行きたいという子もいる。

委員： めがねのまちさばえの知名度は大変上がったが、全盛期から半分の出荷額であり、戻すためには、1 社数億円上げればいい。成功している企業は、デザイン力、企画力、技術力、短納期など伝統とハイテク（インダストリアル 4.0 I o T）がある。これらを追求すれば世界の眼鏡の聖地になれる。世

界の人口は増える、メガネも 10 兆円から 15 兆円になる。販路開拓に官民が連携して取り組んで行けば可能性はある。

委員： 高齢化が進む中、最も問題になっているのは後継者不足。子どもはいても、従事しない。製造業の開業は福井でほとんど聞かない。ただ技術力は非常に高いので、県の人口が減る中、外からお金をとってこないといけない。製造業を維持していかないと厳しい。廃業しているのは田舎の事業所で、後継者不足によるもの。それらの事業所と都市部で事業をやりたいと考えている人とのマッチングを行うといいのではないか。

委員： 区長のなり手がない。仕事が多い中、市から個人情報をもらえず困っている。つつじバスのダイヤ改正の件では、老人会に相談しても区長会にはない。区長もたくさん情報を持っているのでもっと聞いて参考にしてほしい。

委員： 幸福度 No.1 の理由は、悪いところがないところ。いいところも悪いところもない。でも人は出ていく。東京は暮らしにくくても優れているところもたくさんあり、そこに惹かれて人が来る。デメリットには目をつむれてしまう。鯖江のような尖ったことをしている地域が福井の中でも突出して魅力があるということになるのだと思う。県もデメリットを伴ってもすごいところを開拓していく必要がある。

委員： 鯖江は共働き率が高く、女性の働く意欲が高く真面目に仕事をする。一方で、キャリア意識が高くない女性が多いと感じる。週 5 日働きたいが、何をしたい、どうしたいがなくもったいない。仕事と子育てを両立して無理なく自己実現していけるような県になるとよい。福井のブランディングが弱い。なぜ福井にサテライトオフィスをもと聞かれる。もっと経済的なブランディングを出していくとよい。中小企業には高い技術力や素晴らしいビジョンを持っているところが多い。そこを PR していけば大都市圏からも注目される県になれると思う。

委員： 福井ならではを出していくべき。駅前の恐竜とかいい。再開発ビルには反対。文化や歴史を大事にしてほしい。ミニチュア東京にはなあってほしくない。鯖江ならではに惹かれて人は来る。女性の活躍や後継者問題、若者の東京集中に対して、多様性を認めて、寛容になりつつ福井ならではを作っていけたらいい。

委員： 17 年福井に住んでいる。栗田知事には先進的なデザイン政策を打っていたが、その後、後退し、石川、富山に出し抜かれた。福井には中小企業の高い製造量と技術力があり、デザインとの相性がいいし、優秀なデザイナーもいるが活かしきれていないので施策を打つべき。地域資源や伝統産業の価値を上げて発信すべき。日本における福井は、ヨーロッパにおける北欧諸国に立場が似ている。フィンランドは人口 500 万人しかいないが、世界的に存在感が注目されているのは、IT とデザインで勝負すると決めたから。デザイ

ンは貧者の武器。人口がなくても優秀な人の頭脳だけで価値を生み出さるもの。福井の実力を活かすためにデザイン施策を打ってほしい。鯖江は日本一、世界有数の眼鏡の産地なので、パリやミラノのように鯖江コレクションがあっていいと思う。世界に売りに出るのではなく、世界から鯖江の眼鏡を見に来てもらう立場になることを夢見ている。

委員： 鯖江のまちを歩いていてもめがねのまちさばえの匂いがしないことが課題。北陸新幹線は大阪につながらない限り鯖江にとってはマイナス。大阪につながるよりもリニアの方が先になると思う。その間に石川、富山と相当の差がついてしまう。そういった意味でも、鯖江にとっても、冠山峠トンネルの開通が重要。

委員： 女性の働く場がないことで、女性のＵターンが少ない。サテライトオフィス事業を増やすことが有効だと思う。

委員： 無いものねだりより、あるものを大事にすることが大事。必要性のある所には整備しないといけないが、そうでないところには自然の豊かさを守っていく方がメリットがある。鯖江の西側には何もないという方もいるが、何もないことがいいのではとも思う。